

サッカーチームの各ステークホルダーとの関係性構築に関する考察

Consideration about relationship construction with each stakeholder of a soccer team

1K09B139 徳島翔

指導教員 主査 武藤泰明先生 副査 原田宗彦先生

【研究目的】 日本のサッカープロリーグである J リーグに属するサッカーチームは、1993 年の開幕以来、様々な形に組織形態を変えつつ、発展してきた。長い間スポーツの発展を支えてきた企業スポーツの形態を引き継ぐ、地方自治体と一心同体となってチーム運営に取り組む、企業スポーツからの脱却を経ての地域密着政策への転換等、チームによって関係性が深いステークホルダーは異なっている。一般企業と比較すると、サッカーチームのステークホルダーの数は非常に多い。株主、自治体、経営者等はもちろんのこと、ユースチーム、サポーター等のサッカーチーム特有のステークホルダーも存在する。それゆえに、関係性の深いステークホルダーはチームによって様々であり、スポーツ組織の運営を困難にさせる 1 つの要因となっている。そのような現状の中で、実際どのステークホルダーと、どのような関係性を築いていくことが、現在の J リーグチームにとっては理想的であるのか。その点を明らかにし、今後の J リーグチームの更なる発展に寄与することが、本研究の目的である。

【研究方法】 J リーグチームの運営を行う上で重要であると考えられる 3 つのステークホルダー、株主、地方自治体、サポーターとの関係性構築の上で重要なことは何かという観点から、考察する。J リーグに所属する全 40 チームを研究対象とし、3 つのステークホルダーとどのように関係性を築いているのかを明らかにし、良い関係性構築に成功しているチームの例を参考にして、理想形追求を行う。具体的には、株主、地方自治体、サポーターの J リーグチームのステークホルダーになる目的は何かを明らかにする。そしてその目的を理解した上で、ステークホルダーたちの目的を果たしつつ、チームとして発展していくために何をすることが必要であるかを、考察するという研究方法を採用する。

【研究結果】 株主に関しては、メイン企業 3~4 社、地元企業、地方自治体、サポーター持ち株会が分散して株式を保有することが理想的であるという結論に至った。リスク分散、1 社への権力集中の阻止、地域密着度の向上、サポーターの意見尊重等が、結論に至った理由として挙げられる。

地方自治体に関しては、4 つのポイント（目的理解、地域密着、出資者と捉えない、特別感の付与）を理解した上で、関係性構築に励むべきである。財政難やサポーターの減少という危機を乗り越えることに成功したヴァンフォーレ甲府とガンバ大阪に共通する点が、上に挙げた 4 つのポイントであった。

サポーターに関しては、土壌、地域密着、サポーター組織の 3 点を考慮することが重要であり、サッカーを生活の一部として考えている熱狂的サポーターを生み出すには必要不可欠であるということが判明した。ただ、サポーター、特にファンクラブに所属する熱狂的サポーターとの距離感は、近づきすぎてはならない。意見は取り入れるものの、いいなりには決してならない心構えが必要である。適度な距離感を保ち続けることが、理想的である。

【考察】 3 つのステークホルダーを基に、チームとして彼らとどう接していくことが必要となるかを考察してきた。その中で、3 つのステークホルダーに共通して存在する関係性構築の上でのポイントは、「地域密着」であった。J リーグの基本理念である「地域密着」という言葉の重要性を再認識し、本気で地域密着を図る姿勢を見せていかなくは、今後のチームとしての発展は期待できないであろう。基本に立ち返り、地道な地域密着活動に励むことが、時間はかかるが、良いチームを作る上では 1 番の近道なのではないかと考えられる。